

荒神山の古墳を掘る

古墳時代へタイムスリップ

小・中・高校生向け 発掘調査体験会

～みる・ふれる・感じる古墳～

日時 2025年3月8日(土)

1. 10時～ 2. 14時～

集合場所 荒神山神社 遥拝殿(清崎町1872)

現場まで少し歩きます。(徒歩15分ほど)

汚れてもよい服装でお越しください。

※事前申し込み制(各回5組)

調査成果現地説明会

日時 2025年4月12日(土)

1. 10時～ 2. 13時～

集合場所 荒神山神社 遥拝殿(清崎町1872)

現場まで少し歩きます。(徒歩15分ほど)

動きやすい靴でお越しください。

※事前の申し込みは不要です

こうじんやま かく みりよく 荒神山の隠れた魅力

荒神山では、滋賀県で2番目に大きい前方後円墳『荒神山古墳』をはじめ、たくさんの古墳が見つっています。山のあちこちにある小さな古墳たちは、荒神山古墳群と呼ばれていて、1400年も前につくられたものです。荒神山古墳群の一部の古墳には、死者を埋葬する石づくりの部屋、「横穴式石室」が確認されています。なかには天井をドーム状につくった珍しい石室があります。これは海を渡ってきた渡来人がつくったものだと考えられています。

このように荒神山古墳群は、地域の歴史の中でとても価値があり、今まであわせて2回、発掘調査をおこなってきました。

そこで滋賀県立大学考古学研究室では、2022年に彦根市と協力して、荒神山古墳群の調査プロジェクトを立ち上げました。3回目の調査である今回の発掘では荒神山古墳群A支群1号墳の「石室」の本当の大きさをたしかめたいと思います。

つら きよせき 連なる巨石

地上に見えている石室の範囲を超えて、地中では石室から巨大な石が列をなして続いていることがわかりました。今回の調査で石室の本来の大きさがわかるかもしれません。



せきぶつ そせき 見つかった石仏・礎石

墳丘の上では建物の柱を支えるための平らな石が、石室からは石で作られた仏様が発見されました。古墳時代以降もこの場所が利用されていたことがわかりました。



【製作】

滋賀県立大学 人間文化学部
地域文化学科 考古学研究室

【お申し込み先】

彦根市文化財課

電話番号:0749-26-5833

メールアドレス:bunkazai@mx.hikone.ed.jp